

戦国時代を 駆け抜けた

希代の軍師

平成26年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の主人公は、希代の軍師・黒田官兵衛です。知謀と人徳をもって戦乱を生き抜き、生涯50余りの合戦において一度も負けなかった官兵衛。豊臣秀吉はその才能を高く評価しながら「官兵衛がその気になれば、自分が生きている間に天下を取るだろう」と恐れたいといいます。

生い立ちと黒田家の変遷

黒田官兵衛孝高(黒田如水)は、天文15(1546)年に姫路城で黒田職隆の嫡男として誕生しました。黒田家発祥の地は、近江国伊香郡黒田村(現・滋賀県長浜市木之本町)です。官兵衛の曾祖父・高政は、その子(官兵衛の祖父)重隆を連れて備前福岡へ移ります。その後、

重隆らは、龍野を経て姫路へと移り住みます。秘伝の目薬を売ることとで財を成し、御着城主であった小寺家の家臣となりました。官兵衛の父・職隆は、小寺家の信任も厚く、姫路城の城代に任じられました。官兵衛は、母方の祖父で歌人の明石宗和の影響を受け、一時は歌人の道を志しましたが、師事する円満坊に諭され、武勇の道を、

進み始めます。利発で才能に恵まれた青年官兵衛は、16歳で出仕、翌年には初陣、22歳で家督を継ぎ、家老にもなるという出世街道を歩みます。

秀吉との出会い、そして天下統一へ

主君・小寺家が織田方につくか毛利方につくかに迷う中、官兵衛は織田方につくように説得します。岐阜城で織田信長に謁見し、中国(毛利)攻めを進言した官兵衛は、羽柴秀吉のもとで、毛利勢との戦いにおいて数々の功績をあげるなど、秀でた策略により、軍師としての頭角を現していきます。天正10(1582)年、官兵衛

は秀吉に従い、毛利方の備中へと出陣。備中高松城への水攻めの最中に、信長が家臣の明智光秀に討たれる本能寺の変が起こります。官兵衛は秀吉に「光秀を討ち取れば、天下への道が開けます」と進言。毛利との和睦後、姫路城へ戻り戦の準備を整えます。山崎の合戦で光秀を討ち取った秀吉は、天下統一の階段を登り始めます。官兵衛は、軍師として秀吉を支え続け、豊前(大分県中津市周辺)の広大な領地を与えられました。秀吉に「次に天下を狙えるのは官兵衛しかない」と恐れられるほどに、官兵衛は優れた器量を備えた希代の軍師でした。

黒田家と瀬戸内市のゆかり

瀬戸内市は黒田家にゆかりのある地です。

職隆は備前福岡で生まれ、妙興寺(長船町福岡)には、高政の墓があります。「備前長船」「備前福岡」で作られた日本刀の傑作も官兵衛の手に渡っています。また現在の九州の「福岡」の地名は、官兵衛の子・長政が筑前国(福岡県西部)に築いた城に、先祖が過ごした備前福岡をしのいで「福岡城」と名付けたことに由来すると言われています。本紙4ページ「瀬戸内発見伝」でも、黒田家と瀬戸内市の関係を紹介しています。■観光についての問い合わせ先産業振興課

☎0869-22-3653

HP <http://www.citysetouchi.jp/news/>

kurodakanbei.html

太刀「日光一文字」(国宝)

福岡市博物館所蔵 要史康撮影

福岡一文字派の傑作。北条早雲が日光二荒山より譲り受けたため「日光一文字」と呼ばれています。秀吉の小田原攻め天正18(1590)年の際、官兵衛は無刀で小田原城に乗り込み、降伏を勧めました。これが受け入れられ、礼として北条氏直から北条家の家宝であるこの太刀が贈られました

刀「安宅切」(国重要文化財)

福岡市博物館所蔵 要史康撮影

官兵衛の陣刀で長船祐定の作。秀吉の四国平定の際、安宅河内守を討ち取ったときにも、使用されたとされる名刀。外装の金襴鯨青漆打刀拵も国の重要文化財に指定されています。

教意山妙興寺

きょういざんみょうこうじ 教意山妙興寺
応永10(1403)年、播磨の国主・赤松右京大夫則興の追善供養のため、その子、大教阿闍梨日伝によって開かれました。戦国時代には、寺域が2町(約2万平方尺)余りに及び、1院と10の坊が立ち並ぶ大寺院でした。本堂東側には樹齢約400年で市指定重要文化財の2本のイチョウの古木があります。



関係年表	鎌倉時代	室町時代	戦国時代	安土桃山時代	江戸時代
鎌倉時代	備前福岡で、福岡一文字派と称される刀工が活躍する。	教意山妙興寺が開山する。			
室町時代	応永10(1403)年	曾祖父・高政が備前福岡に移り住む。祖父・重隆も同行する。	永正8(1511)年	天正3(1575)年	慶長9(1604)年
戦国時代	大永3(1523)年	大永4(1524)年	天文15(1546)年	永禄10(1567)年	関ヶ原の合戦。中津から出陣し、九州の大半を制圧。
安土桃山時代	天正10(1582)年	天正13(1585)年	天正18(1590)年	慶長5(1600)年	子・長政は、筑前52万石の新たな城地に先祖ゆかりの地から「福岡」と名付ける。
江戸時代					京都の伏見屋敷で病死。享年59歳。

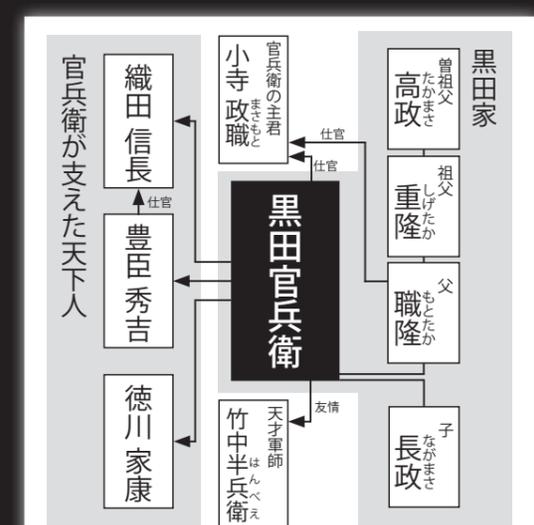


市と備前福岡古民家活用プロジェクトでは、黒田家ゆかりの地であることをPRするため、デザイン専門学校で公募を行い、市内の小学生などによる審査の後、マスコットキャラクターを決定しました。

＜瀬戸内市黒田官兵衛マスコットキャラクター「備前福岡官兵衛くん」＞



「黒田如水像」福岡市博物館所蔵



人物相関図

黒田官兵衛 孝高